



コンサートがもっと楽しくなる…♪

# オーケストラの楽器たち④～打楽器～

平塚フィルハーモニー管弦楽団

鳥海 潤子

誰もが一度は手にしたことのある楽器…打楽器。

タンバリン、トライアングル、カスタネット、小太鼓、大太鼓、シンバル、シロフォン（木琴）、マリンバ（木琴）、グロックン（鉄琴）などたくさんあります。



タンバリン、トライアングル、カスタネット



マリンバ、グロックン、シロフォン  
鍵盤楽器用マレット



小太鼓、シンバル、大太鼓



ティンパニ

弦楽器、管楽器以外の音はすべて打楽器奏者が演奏するので、楽器の種類は数え切れない程です。

しかしなんとと言ってもオーケストラで一番出番の多い打楽器はティンパニです。

通常は2個から4個をそれぞれ違った音程に調律して使用

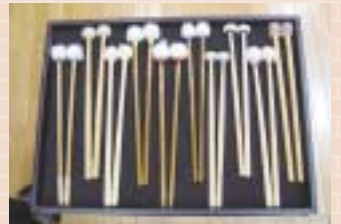
します。17世紀後半に登場してきた頃はネジを締めて調律していましたが、曲の途中での音変えに時間がかかってしまい、限られた音のみを演奏するという扱いをしていたようです。しかし19世紀終りにペダルタイプが出来てからは調律もかなり短時間でできるようになり、曲によってはたたくことよりもペダルでの音変えの方が大変といった曲も作曲されています。

打楽器は読んで字の如くたたいて音を出す楽器です。たたくものは、スティック、マレット、ビーターと呼ばれ名はいろいろありますが、全て楽器をたたく棒のことで、より豊かな表現を可能にするためにも、とてもたくさんの種類があります。プロの奏者は自分好みの大きさ、重さ、硬さを調整して、自分モデルのものを使っている人も多くいます。

曲によって選択は違いますが、マーラーのように「木のバチで」「スポンジのようなマレットで」など細かい指示がある場合はできるかぎりそれに従うように選択していますが、ほとんどはそれぞれの奏者が指揮者の好みを考慮したり、自分の好みで選んだりしています。



小太鼓、大太鼓用バチ  
(スティックなど)



ティンパニ用マレット  
(先端が丸くなっているタイプをマレットと呼ぶ)

## 「まちの小さな演奏会②」 けやきの杜(もり)の音楽会

～小さいけれどダイヤのようにキラリと光る「まちの演奏会」を紹介します～

「李香蘭物語 二胡と歌の夕べ」 ジャズワークショップ湘南 木崎二郎



今回は昨年(2019年)の12月8日に開催されたコンサートをご紹介します。

ゲストは美貌の中国人歌手任雁(レンイェン)さんと曹雪晶(そうせつしょう)さんと、任雁さんは数少ない中国風の(京劇で歌われるような)歌い方をされる希少の歌手です。曹さんは坂本龍一さんの作品を演奏することで知られておりアコーディオンのコバさんとの共演のCDもあり素晴らしい演奏家との折り紙つきです。また、司会とピアノは両



者の友人である私が務めました。

プログラムは北京オリンピックの公式歌「茉莉花」(モリファ)から始まりました。任雁さんの歌はいかにも中国風で最近の中国の音楽家の多くは西洋化されているのでとても新鮮に響きます。また伴奏の曹さんも中国の方ですから二人のコンビネーションは抜群です。

今回のプログラムには日本の歌も入れていただきました。「宵待草」「浜辺の歌」などきれいな日本語で歌っていただきました。また有名な「蘇州夜曲」「何日君再来」や「夜来香」などは日本語と中国語で歌っていただきました。アンコールは曹さんの二胡で「競馬」これは二胡の代表的な曲ですが熱狂的な素晴らしい演奏が聴けました。

けやきの杜は50人入るといっぱいの会場ですので演奏者の息づかいを目の当たりにできる、コンサートホールにはない長所があります。こういう地域にある会場を活かした音楽会があちこちで行われるとよいと思います。

